平成 30年　3月　6日

研修報告書

氏名：長田郁夫

所属：

　１）子育て長田こどもクリニック

　２）鳥取大学医学部(非常勤講師、臨床教授)

研修期間：平成　27年　5月　1日　～　平成　28年　3月31日

研修場所：鳥取大学医学部附属病院遺伝子診療科

受講動機：

自施設は小児科、新生児内科、アレルギー科を標榜していますが、日常診療の中では遺伝医学や遺伝カウンセリングの知識、実践が必要な状況に多く遭遇します。また日常診療の場で最新情報を必要とすることも多いですが、情報を入手するのが難しいのが現状です。本インテンシブコースを通して遺伝医学や遺伝に関する最新の知識、情報とカウンセリングの実践の修得を目的として受講しました。

研修内容：

１）第２，４　水曜日　遺伝子診療科カンファレンスに参加

　　自身の外来でのフォロー症例に関する情報確認

２）研修会への参加

３）カンファレンスにおいて遺伝医学、遺伝子診療、遺伝に係わる研究などの最新情報

　　入手、情報共有

研修成果：

１）カンファレンス事例(一部抜粋)

　・卵巣がん(HBOC関連遺伝子検査)、HBOC疑い

　・IRUD参加、IRUD-P、NIPT症例

　・ハンチントン病　13回  
　・ニューマンピックC保因者診断、ゴーシェ病(出生前診断)

　・ジュベール症候群

　・結節性硬化症

　・先天性ミオパチー、ベッカー型筋ジストロフィ症  
　・Leigh症候群疑い、発達遅滞、多発奇形

　・神経線維腫症Ⅰ型

　・アラジール症候群、ウィルソン病

　・異型ポルフィリン症

　・眼皮膚白皮症疑い、網膜色素変性症

２）自身の外来でのフォロー症例に関する情報を確認した症例

　・神経線維腫症Ⅰ型

　・原因不明の重度発達障害

　・絞扼輪

　・色覚異常

　・難聴

　・眼皮膚白皮症

　・第１、第２鰓弓症候群21ﾄﾘｿﾐｰ

３）研修会

　A)院内家族性腫瘍勉強会

　　i)遺伝性乳がん卵巣がん症候群の「遺伝」について(遺伝子診療科)

　　ii)遺伝性乳がん卵巣がん症候群の「乳がん」について(胸部外科)

　B)ＩＲＵＤ勉強会

　i)次世代シークエンサーによる解析の実際

４）遺伝子診療に関する情報共有事項(一部抜粋)

　１. 民間事業者が提供する非発症保因者診断を目的とした 臨床研究「夫婦遺伝子

　　　スクリーニング検査」について（日本人類遺伝学会HP）

２.がん遺伝子の網羅的解析ｼｽﾃﾑの導入(三重大学医学部付属病院)

　３. 妊娠中のマウスを介するダウン症のこどもマウス症状を改善する化合物

　　　の発見(京都大　萩原正敏教授)

　４. 大規模なゲノム情報の解析による肥満に影響する１１２種の遺伝的特徴

　　　の発見

　５. ゲノム編集の生殖医療への臨床応用に対する法規規制

　　　　(政府生命倫理専門調査会)

　　　ゲノム編集でヒト受精卵を操作する研究における条件付き容認

　　　　(政府生命倫理専門調査会)

　６. 筋強直性ジストロフィーにおける萎縮の仕組み解明

(大阪大神経内科)

７. ゲノム編集技術による患者のゲノムの直接書き換えに関する臨床試験

(米国サンガモ・セラピューティクス社)

８. 希少がん対応病院リスト公開(国立がん研究センター)

　　国立がん研究センター「がん情報サービス」（https://hospdb.ganjoho.jp/kyoten）

　９. がん治療の遺伝情報によるオーダーメイド治療の保険適用(2019年度予定)

10. 遺伝子検査ビジネス、情報保護などを定めた指針の規制について

　　　　厚生労働省研究班（代表＝高田史男・北里大教授）

11. 「がんゲノム」　全国で診療体制整備(厚労省)

「がんゲノム」拠点病院に１１施設を選定(厚労省)

　　　　　北海道大、東北大、国立がん研究センター東、慶応大、東京大

　　　　　国立がん研究センター中央、名古屋大、京都大、大阪大、岡山大、九州大

　12. 新型出生前検査(NIPT) の一般診療への拡大

（日本産婦人科学会 2019年度予定）

その他（感想・要望・反省点、等）：

　カンファレンスへは毎回参加するよう心がけていましたが、12月以降は自施設が繁忙期に入り充分に参加できませんでした。継続して経過確認していた症例も複数例ありましたが、一部経過把握が困難となりました。また、遺伝子診療科においてカウンセリングへの陪席を予定していましたが、スケジュールの調整困難のため陪席ができませんでした。カンファレンスへの参加により症例の把握に努めていたにもかかわらず実際のカウンセリングに陪席できず研修が充分できない状況が生じたことは反省点としてあげられます。

　カンファレンスや研修会などで遺伝医学、遺伝カウンセリング、遺伝子診療、研究に関し数多く情報を入手できたと思います。遺伝カウンセリングの実践に一層理解を深めるべく、カンファレンス参加、カウンセリングへの陪席を続けていきたいと思います。

　NGSDにより他施設との交流、他のコース参加者との交流ができることで自分自身の知識や経験を深めることができると思いますので、NGSDプロジェクトが継続されさらに多数の方が参加されることが望まれます。